

日本計量生物学会

ニュース・レター No.61

1997年10月

目次

巻頭言
会長から一言
1997年度第4回理事会議事要旨
会計理事からのおしらせ
関連学会等のおしらせ
書評
事務局からのおしらせ

佐藤俊哉（統計数理研究所）

前号の巻頭言でも触れられていたICH統計ガイドラインの中に、「適切な資格と経験のある統計家」という表現があり、臨床試験に関わる統計家の資格についての議論がなされようとしている。どういう統計教育や経験が必須かという議論は、専門家の間で十分にさせていただくことにして、ここでは統計家ではない者の立場として試験統計家、もっと広いうと生物統計家として必要な、統計以上の素養について考えてみたい。

我々が対象とするのは生物・医学系の問題であるから、生命現象や人体といったものに対する興味が第一である。教養レベルの生物教育（医学教育は医学部でなければ受けられないので）を受けていること、しかもそれがおもしろかったという経験が望ましいが、少なくとも自分が関わっている研究で対象としている疾病について、どういう疾病でリスク要因は何か、予後はどうか、日本の現状、臨床試験であればその治療法、などを勉強することが苦にならないことは絶対に必要である。個人的に非常に強い意見をいわせてもらえば、これが楽しくできない人には生物統計家にはなってほしくない。

第二に、ヒトを対象として研究を行う以上、研究参加者の人権への配慮といった倫理観が必要となる。特に臨床試験ではヒトに対する実験を行うのであるから、科学性よりも倫理性を重視すべきである。残念ながら生命倫理に関しては、教育を受ける場というものが存在しないの

で、ばくぜんと「倫理観を持て」というのは厳しい要求事項ではあるが、将来の生物統計家の教育体制の整備とともにその中に盛り込むべき内容ではないか。現状としては、少なくともヘルシンキ宣言すら読んだことのない人には生物統計家としての資格はないだろう。

第三に、実はこれが最もいいかったことだが、疫学の考え方をぜひ学んでほしい。生物統計学科が所属するアメリカの公衆衛生学部には疫学科が必ずあり、生物統計学科の学生は疫学の入門コースを選択することが要求される（それだけではなく、ノースキャロライナ大学では臨床試験の講義は疫学科の単位であった）。疫学は、集団に対するアプローチ、衛生統計・動態統計の扱いなどから統計と最もなじみやすく、一方で医学的、健康科学的な考え方を学ぶ格好の機会を提供する。

統計家と名のつく以上、統計が好きで十分な教育、知識、理解があるのはあたりまえ。さらに頭に「生物」とつくのだから、統計家以上の売りがなければ専門として成り立つはずもない。そのために必要と考える内容を三つ挙げた。三つとも自分に都合のよい、いわば後知恵解析みたいなものだが、正直言って、生物統計以外の応用統計の分野で第一の要件にあたる行為は私にとって楽しいことではなく、むしろつらい行為である。したがって、私には生物統計以外の他の応用分野の統計家を名乗る資格のないことは、自分の中の基準に照らして十分自覚している。

統計以上

会長から一言

吉村 功

会長を引き受けてから早くも半年以上がすぎました。ミスが多くて、会員や役員の皆様にご迷惑をおかけしていますが、ご容赦願います。

今、本会が直面している緊急課題は、事務局の場所です。現在は統計数理研究所の駒沢教授のご厚意に甘えていますが、定年等の問題で、移転が必要です。本会の財政的余裕を考えると、商業ベースの事務所を持つことは無理です。大学等の空間は使いにくい状態になっています。最悪の場合、郵便等を私書箱にして、後は役員との電話やメールで対処することさえ覚悟しなければなりません。学会がボランティア市民運動なみになるわけですか？というわけで、学術会議をはじめ、機会のある度に窮状を訴えているところですが、もし名案や提案がありましたら、教えて下さるようお願いします。

学会運営が難しいのは、社会が計量生物学の意義を十分には認めていないためでもあります。内輪の仲良し研究ではなく社会に寄与する内容をもっているよ、といろいろな機会にアピールしていただくことも重要だと思います。ご協力をお願いします。

日本は金を出すが国際的な寄与は乏しい、と欧米からよく批判されます。以前よりは良くなりつつあると思いますが、より多くの努力が必要と思います。近いうちに、Biometirc Bulletinで、Council Memberの投票が求められます。日本は投票率が悪いので国際貢献の意欲がないと思われる面もあります。棄権をしないことも国際貢献の一部になります。必ず投票をさせていただきようお願いします。

1997年日本計量生物学会第4回理事会議事要旨

日 時：1997年6月17日（火）18：30～20：40

場 所：統計数理研究所特別会議室

出席者：岩崎、上坂、鶴飼、岸野、駒澤、佐藤（喬）、佐藤（俊）、高木、椿、二宮、橋本、林、

三中、吉村 各理事 栗原 事務局

1. 前回議事要旨の確認

前回議事要旨が承認された。

2. 第5回計量生物セミナー

臨床の部プログラムの最終確認等を橋本理事から大橋理事に連絡してもらう。生物の部担当三中理事より、「保全生物学をめぐる最近の話題」をテーマとすることが説明された。

確定したプログラムを7月のニュース・レターに掲載し、参加申込用紙をニュース・レターとともに送付する。参加費は昨年と同一に個人15,000円、企業30,000円とするが、宿泊費が上がっていた場合には値上げ分だけ上乗せする。申込者数の上限は講師、オーガナイザーを含め臨床の部100名、生物の部50名、先着順とする。要旨集用原稿は臨床の部、生物の部それぞれでとりまとめ、9月22日（月）必着で事務局宛に送付する。

3. 名誉会員、学会賞の制定について

名誉会員の規約について当学会として考慮すべき点について、高木理事より資料を用いて説明があった。他の学会の会則を参考に、高木・駒澤理事で名誉会員会則の文案を作成することになった。

学会賞については、前回理事会で柳川理事より提案があり、他の学会では、学会への貢献、学会誌掲載論文、学会発表、などの業績に賞を設けている。この件については次回もう一度議論することになった。

4. 1998年度合同年次大会について

吉村会長から5月28日に開催された応用統計学会との連絡委員会について説明があった。来年の合同年次大会は、5月12日（火）、13日（水）に中央大学駿台会館を予定している。

5. その他

佐藤（喬）会計担当理事から総会予算案の訂正について報告があった。A会員会費に誤りがないかももう一度確認することになった。

佐藤（俊）庶務理事から、ニュース・レターへ誤ったA会員の会費を掲載した件について前広報担当として謝罪があり、次号のニュース・レターにお詫びと訂正、すでに納入された会員の方には次年度に5,000円納入していただくことを掲載することにした。

Biometrika Societyとの協力関係について、Oxford University Press日本代理店恩地氏から回答があり、当学会からBiometrika Societyあてに手紙を送付することが了承された。

椿理事より関連学会懇談会のホームページについて紹介があった。

次回は9月9日18:00から、統計数理研究所で開催予定。

記録 佐藤俊哉 庶務担当理事

会計理事からのお知らせ

1997年度の会費の納入をお願いいたします。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1～12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。詳しくは、ニュース・レターNo.48巻頭言をご覧ください。

会費	1997年度	1998年度
A会員	4,500円	4,500円
B会員	10,000円	10,000円
C会員	5,000円	5,000円
開発途上国援助のための特別会費	2,000円	2,000円

特別会費に賛同される方は、A、B、C会員会費に2,000円を上乗せして下さい。

A会員：Biometricsを購読しない正会員
B会員：Biometricsを購読する正会員
C会員：学生会員（Biometricsを購読する）

郵便振替口座：

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

第一勧業銀行 飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会

または、

三和銀行 飯田橋支店

普通 624-3596166

日本計量生物学会

佐藤喬俊 会計担当理事

関連学会等のお知らせ (1997年11月—1998年12月)

●1997年11月7日－8日 東京大学法文2号館
薬剤疫学研究会第3回大会

連絡先：薬剤疫学研究会事務局

電話&FAX 03 (5802) 8603

●1998年3月18日－20日 Washington, D.C., USA

Agricultural Statistics 2000: An International Conference on Agricultural Statistics

連絡先：FAX 202 690 1311

e-mail: fvogel@nass.usda.gov

●1998年8月9日－13日 Dallas, USA

1998 Joint Statistical Meeting sponsored by ASA, ENAR, and WNAR

連絡先：FAX 703 684 1221

e-mail: meetings@asa.mhs.compuserve.com

●1998年8月24日－28日 Bristol, UK
COMPSTAT '98

連絡先：FAX 44 1582 760981

e-mail: compstat-98@bristol.ac.uk

●1998年9月7日－11日 Glasgow, UK

The 1998 Royal Statistical Society Conference (RSS98)

連絡先：FAX 44 (0) 141 552 2079

e-mail: rss98@stam.strath.ac.uk

その他、関連学会・会議・セミナーなどございましたら、ニュースレター編集委員までお知らせ下さい。

書 評

「生物資源統計学」(山田作太郎・北田修一、成山堂書店259pp, 1997)

竹中靖人(九大・理)・松田裕之(東大海洋研)

統計学のテキストはたくさんある。すべての読者が満足する一冊のテキストは存在しないのかもしれない。読者の素地、分野、数学的訓練の度合いにより、理想の教科書は異なる。そして、さまざまな分野で統計学は、好き嫌いに関係なく、必

要不可欠な道具でもある。

本書は生物系に必要な統計学のテキストである。統計学の初歩から最尤法やGLM（一般化線形モデル）まで網羅されている。水産資源を材料とした適応例は、水産系ならずとも生物系も含めて数学を苦手とするものにとって、手法の使い方の「感覚」を身につける手助けになるだろう。山田作太郎先生は理学部の出身、北田修一先生は水産学科の出身で、現在はともに東京水産大で教えておられる。実践に役立ち、しかも正しく理解すべき要所を押さえるのに絶好の共著書である。統計学はしばらく使わないと忘れる。しかし、学生時代にきちんと学んでおけば思いだして使うことができるだろう。

英語で論文を書いたり読んだりするときのことを考えると、一部の重要用語に英語名がついていないのは不便である。演習問題の答が載っているのはありがたいが、さらに注文をつければ、演習問題の難易度の情報もつけて頂きたかった。

統計学は計算機の普及とともに大きく変容しつつある。この本でも t 分布などの考え方、使い方を説明するために付表が載っているが、付表はもう要らないのではないか。その代わりに、bootstrap法などの計算機による手法を説明して

頂きたかった。統計ソフトだけでなく、統計の考え方も進歩している。水産資源を材料にした適応例は、すでに社会に出た方々が勉強し直すにも適している。現在、東大海洋研ではこの本の勉強会を開き、解答の補足や誤植などをホームページ

<http://ori.u-tokyo.ac.jp/~ayu/seminar/biometry.html>

で公開している。

現代では、離れていてもある程度一緒に勉強することができる。他の読者の方々からのご協力とご支援を期待している。

事務局からのお知らせ

銀行振込で会費を納入していただく場合、機関名が長いと会員名が切れてしまい、どなたからのお振り込みが、事務局では分からなくなることがあります。銀行振込の際には、必ず会員名を先頭にして下さい。

学会への連絡、問い合わせ等は手紙またはFAXで下記事務局までお願いします。また、所属、連絡先等に変更のあった会員の方は、事務局までご一報下さい。

日本計量生物学会事務局

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所駒澤研究室内

FAX 03 (3446) 1695

栗原恵美子

編集委員会 林 邦彦，橋本修二

〒371 群馬県前橋市昭和町3-39-15

群馬大学医学部保健学科医療基礎学

林邦彦

FAX 027 (220) 8999

e-mail khayashi@news.sb.gunma-u.ac.jp